

# 令和元年度第 1 回 新庄市総合教育会議会議録

開催月日	令和元年 9 月 19 日 (木)
開催場所	新庄市役所第 1・2 会議室
出席者	市長、高野博教育長、山村明德委員、阿部浩悦委員、阿部仁美委員
欠席者	斉藤浩昭委員
事務局	武田信也教育次長兼教育総務課長、高橋昭一学校教育課長、渡辺政紀社会教育課長 東海林主幹、小関教育総務主査、佐藤主査、上村主事
議 事 の 大 要	

午後 3 時 30 分より、市長のあいさつで、総合教育会議を開会する。

## 1. 開会

## 2. 市長あいさつ

## 3. 協議

令和元年度全国学力・学習状況調査について

(市長) 令和元年度全国学力・学習状況調査について説明をお願いします。

(学校教育課長) はじめにこの調査の目的は 3 点ございますが、中でも学校において児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に活用するということが重要であると考えております。実施日は 4 月 18 日で、小学校 6 年生・義務教育学校 6 年生 295 名、中学校 3 年生・義務教育学校 9 年生 320 名が参加しております。調査内容は、小学校・義務教育学校前期課程では国語・算数、中学校・義務教育学校後期課程では国語・数学・英語で、今年度から中学校・義務教育学校後期課程における英語が初めて実施されました。また、昨年度まで国語・算数・数学の問題形式が、基礎知識を問う A 問題と活用力を計る B 問題で構成されていましたが、今年度から A・B の区分がなくなり一体化された問題形式となっております。

次に調査結果ですが、小学校・義務教育学校前期課程において、国語は全国平均を大きく上回り、算数は全国平均を下回りました。中学校・義務教育学校後期課程については、国語は全国平均を下回り、数学と英語は全国平均を大きく下回りました。なお、「大きく」の表現については、全国平均と比較して 3 ポイント以上の開きがあるものとしております。また、昨年度に市議会からいただきました政策提言を受けまして、先日、市内各校の全教職員で市の正答率を共有したところでございます。今後、授業づくりや研修等に活かして参ります。今年度の調査結果の特徴については、小学校・義務教育学校前期課程において、国語は過去 7 年間の中で最も良い数値となり、年々伸び続けております。これは、読書が好きな児童が多いこと、児童が様々な文章を読むことに慣れてきていること、各教科において言語活動を重視した授業を行ってきた結果であり、読書活動の充実、学校図書館への人員配置などの取り組みの成果が表れてきているものと考えます。算数は、これまで B 問題が伸びてきておりましたが、今年度は全国平均を下回りました。数学的な考え方に

課題があり、自分の考えを書く、根拠を説明するなどの「表現する」部分を強化していく必要があると考えております。分布については、国語上位は全国より上回り、算数上位は下回りました。算数では14問中3、4問しか正答でない部分が全国と比較して目立っており、つまりいている児童に対し個への指導も行っていく必要があると考えます。中学校・義務教育学校後期課程については、昨年度まで国語A・B、数学A・Bともに上がったり下がったりしていましたが、今年度は全国平均を下回りました。ともに全国平均より上位の生徒が少ない状況にあります。国語は「情報を整理し内容を捉えること」、「適切な活用の表現」等が課題であり、複数の資料から必要な情報を結び付けて考えるような活動を日頃から意図的に仕組むことを続けていきたいと考えております。数学は「技能」が課題でありました。つまりきを把握して、どの生徒にも基礎的な学力が身に付いているのか見届けて指導していく必要があります。英語は中位と上位が少なく、下位が多い結果となりました。「聞く」「読む」「書くなど表現する」等、全般的に課題があり、総合的に聞く・読む活動、コミュニケーションを双方向で行う活動、日常的に書く活動を強化したいと考えています。さらに、英語への関心・意欲を高めていく必要があると考えております。

続いて、児童生徒の質問紙の回答における全国と比較した本市の傾向ですが、これは全員、自己評価を行い、傾向を見るものであります。全国と比較して「1当てはまる」のみに該当する割合を比較して、より特徴が見えるようにしております。小学校・義務教育学校前期課程では「自己肯定感、規範意識が高い。最後までやり遂げる、難しいことでも失敗を恐れず挑戦する児童が多い。」、「地域行事への関心があり、参加をしている。」、「授業では、自分で考え自分から取り組む。工夫して発表する。友達と話し合い活動を通して考えを広げたり他の学習に活かしたりしている。」の3点については、昨年度同様、高い傾向が見られます。今年度、設問が変わった部分で「教師からよいところを認められている。」という児童も比較的多い結果でした。課題としては「授業でコンピュータをほぼ毎日使う児童が少ない。」という項目について全国との差がありましたが、全国でも10.4ポイントとなっており、これと比べて低いということでした。また、家庭学習ですが「1日あたり、授業時間以外に2時間以上勉強している児童が少ない。」という傾向です。中学校・義務教育学校後期課程ですが、昨年度同様、「自己肯定感、規範意識が高い。」、「最後までやり遂げる、夢や目標を持っている、規則を守っている、地域行事への関心があり、参加をしている。また、地域の人と関わっている。」、「授業では、自分で考え自分から取り組む。工夫して発表する。話し合いの活動をしている。」の3点が高く、また、毎年同じような傾向となっており、大変良い事であると感じています。加えて「教師からよいところを認められている。教師から分かるまで教えてもらっている。」という項目も全国より高くなっておりました。一方で「外国の人と友達になる、外国のことをもっと知りたいという生徒が少ない。英語が好き、大切、分かる、役に立つと考える生徒が少ない。」という結果になりました。家庭学習については「1日あたり、授業時間以外に1時間以上勉強している生徒が少なく、2時間以上、3時間以上は特に少ない。」という傾向でした。

最後に、学校質問紙の回答ですが、これは各学校で1部提出する内容でございます。全体的に、教員としての自己評価が厳しく出たと感じています。なお、課題の部分については、全国と比較して、おもに「1当てはまる」、「2どちらかという当てはまる」に該当する学校の割合としております。まず、小学校・義務教育学校前期課程については、探究の学習過程、小中連携は非常に高く、昨年度と同様となっています。一方、課題については「各教科を横断的な視点で教育内容を組織的に配列している。」という部分で自己評価が低くなっております。そして「ICTを活用した授業を

行っている回数が少ない。」という自己評価でございました。中学校・義務教育学校後期課程ですが、「生徒は、授業では自分で考え、自分から取り組むことができている。」「総合的な学習の時間において、課題、まとめ、表現等の過程を意識した指導をしている。」と評価しております。課題については、小学校と同じように「各教科等の教科目標や内容の相互関係、横断的な視点での配列」、カリキュラム・マネジメントと関連しますが、この部分が十分でない自己評価しております。また、地域等外部の資源を含めてもっと活用できるのではと考えています。「ICTを活用した授業を行っている回数が少ない。」との自己評価となっております。

以上が結果についての報告となりますが、出席の皆さまからご意見をいただきながら、今後の指導に活かして参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(市長) ただ今の説明について、ご出席の皆さんからご質問、ご意見をいただきと思います。

(山村委員) 小学校の国語が全国を大きく上回ったというのは図書館教育、市立図書館だけではなく学校図書館への人的配置などの成果が表れてきているのではないかと感じているところです。

さて、新庄市では小中連携をより進めた小中一貫教育を推進してきました。そして、施設一体型の義務教育学校が最も効果的である言われている中で、小学校から中学校への連結部分がどのように変化しているのか。というのは、小学校での調査結果は良いのに中学校では成果が見えない部分もあり、特に算数・数学において大きく言える訳です。やはり、積み上げが非常に大事だと感じていて、義務教育学校では5・6年生から教科担任制を行っていることでの成果、それが今後の新庄市の学力向上につながってくるのではと感じています。また、中学校の英語ですが、中学校から始まった英語なのに、全国との差が出てきている。その要因、原因が見えないと感じます。先生方が努力している姿は承知していますが、小学校にもALTが訪問して英語教育を行っている中で、その成果があまり見えてこないという感じを受けます。いずれにしても、新庄市の場合は小中一貫教育と小中連携の違いを大事にしていかなければという感想を持ったところです。

(学校教育課長) 義務教育学校に限らずその年によって伸び悩むということはあり、学年が違うということで良かったり悪かったりということはあると思います。義務教育学校の教科担任制については、以前は中学校の教員が前期課程の授業に多く入っていましたので、そういう成果は見られていると思います。例えば、NRTの数値では小学校から中学校3年生になると徐々に低下するという傾向にあったのですが、義務教育学校では成果が見られていると思っております。また、英語については、特定の部分が弱いというのではなく、総合的に課題があると感じております。今年は「書く」という部分を授業で強化していきたいと思っております。ALTについてですが、学校によっては十分活用しきれていない部分もあったのではと感じていますので、今後、改善していきたいと思っております。さらに、小学校においても英語に対する興味・関心を高めるため、低学年からALTと関わる機会を増やしていきたいと考えております。

(教育長) 義務教育学校の教科担任制については昨年度と今年度でその方法が異なっていて、昨年度は中学校教員が5・6年生に授業をするスタイルとなっていました。今年度は小学校の担任2人が行っている形となっており、中学校の専門的要素を授業に取り入れるという観点からすると弱くなってきていると感じますので、今後、その方向性を検討していく必要があります。しかしながら、

教科担任制などを含む義務教育学校での取り組みを全体的に見れば、その成果は上がってきているものと感じています。

(市長) 他にございませんか。

(阿部仁美委員) 国語の「読む力」が高いことは、問題を解くにあたって大変良い事だと思います。一方で、探究型学習への取り組みに向け、先生方は授業を研究していろいろ工夫されている中で、それがこの調査結果に反映されてこないのはなぜか。総じて家庭学習時間が少ないことと、授業・学習（特に英語）に対して興味・関心が低いのではと感じます。また、今の子どもたちは、夢中になれる何かを見つけられていない、何でもいいので自分が好きなことを持つということができていないように感じます。今回の調査結果の数値が全てではないですし、「生きていく力」というのはテストの点数だけでは計れないことは十分理解していますが、やはり、何か好きなことを見つけていくと、それがいろいろと波及して、テストの数値にもつながってくるのではと感じています。

(市長) 本市では家庭学習時間が少ないということですが、他のところでの実際の現状はどう何だろうということをおもいますし、保護者の教育観は、自分の経験則から子どもを推し計る傾向があるのではとも感じます。また、「好きなことを見つける」という観点では、学校や教育現場においてどうでしょうか。何か1つ好きなもの得意なものが見つかる、それに釣られて他も分野も伸びていくとか。

(阿部仁美委員) 「先生を好きになる」ということも1つの大きな要因ではないでしょうか。ある学校で英語の先生が異動したのですが、その先生に会うために英語弁論大会への出場を目標としてきた子がいて、見事、弁論大会に出場しその先生と会うことができたというお話を聞きました。「先生が好き」ということも大きな力になると感じたところです。

(市長) 非常に分かりやすい事例を教えてください、ありがとうございました。他にございませんか。

(阿部浩悦委員) 萩野学園が義務教育学校となつて一定の成果が得られているとなれば、新設される明倫学園ではどういう結果が出るのかが改めて問われることだと思います。また、小学校6年生が3年後にどういう結果を出せるのかということも楽しみでもありますし、そのような視点でこの学習状況の結果を見ていくことも必要ではと考えます。「学力が向上している。」という結果が得られれば、子ども教育関係者にとってはうれしい事ですし、逆の結果であれば落胆してしましますが、昔のPTA全国大会の時に講演者の方が「学びの基本は、読み・書き・そろばんです。」という話をされ、それ以来、子どもたちの前では「勉強の基本は読み・書き・そろばんだよ。」と言っていますが、それに加えて、現在は英語で「聞く・読む・表現する・会話をする」など、子どもたちの負担が増える中でどんな形で学んでいるのか。1日の授業以外に学習しているというのは、都会であれば家庭学習というよりも「塾」での学習が多いのかも知れませんが、一方、こちらでは、そのような環境が少ないため、家庭学習の時間が短いのかも。この調査結果には出ていませんが、テレビゲームやテレビに向かう時間を短くして、家庭での保護者との会話の時間を作っていくことも大切だと思います。例えば、たくさんドリルをこなして褒められる勉強もあるとすれば、家庭で

保護者と子どもがもっと会話することも大切な学習なのではと感じます。ともすれば家庭学習は授業の予習・復習や自主学習などが主であると考えがちで、それらの勉強・学習も大事であることは十分理解していますが、それよりも「親子の会話」というものが家庭学習としてはもっと大切なのではないのかと感じているところです。また、調査結果の中で、小学生・中学生とも「自己肯定感、規範意識が高い。」というのは、子どもたち自身で今後の社会を構築していく中においては、非常に良い事であり、頼もしく思ったところです。現在、学校での授業が探究型学習ということで、子どもたち同士の議論を通じて結論を導き出していくというスタイルが確立するのであれば、今後、その成果が試される時代になってくると思います。話は変わりますが、他市町村でも各々の考え方に基づいた教育方針でもって学校教育を行っている訳ですが、その方針によって具現化される各施策や教育現場での先生方の活躍など、他市町村の成果が見られることも楽しみでもありますし、新庄市では義務教育学校として整備される明倫学園も、何年後かにはその成果が見られるものと思いますので楽しみにしております。

(市長) ありがとうございます。先程、山村委員からお話があった学校図書館に関しては、学校図書館への人的配置によって、教員以外の一般の方々が教室以外で本を読む子どもたちに声を掛けているという場面が学校生活にあれば、子どもたちが読書からいろいろなイメージを膨らませて挑戦していくと。そのようなことから学校図書館に力を入れてきたのですが、その結果、国語の数値は上がっていると。そうすると今度は、算数・数学と英語をどのように展開させていくか。例えば、スーパーバイザーなどの活用とか。また、家庭学習の時間が少ないということですが、阿部浩悦委員もお話しされていましたが、やはり都会では「塾」中心となっているのではないのかと。なお、市内にも学習塾にはありますが、市内の子どもたちだけではなく周辺町村の子どもたちも通ってきており、それだけ学習効果が高いとみられているのだらうと。加えて、家庭学習での時間を少なからず補っている部分はあるのではと思います。それを公的な部分で大蔵村のように本市で実施すると仮定した場合、いつ頃、どこに開設すべきなのか。しかも、もしそれを行った時には、自分で勉強をやることの楽しさを覚えたみたい。子どもたち自らの挑戦的な姿勢を導き出すために勉強のやり方を教えていく。子どもたち一人一人が求める学習の方法を学ぶ場、具体的には、疑問点の解決方法や学校の授業での先生への質問の仕方など、裏話的部分も含めた仕掛けづくりでの新庄流の公営の塾というものがあってもいいのかも知れませんが、教育委員会の中でもいろいろ参考意見をとります。どれが正解というのではないかも知れませんが、子どもたちが意欲をもって「これをやったら分かってきたぞ。おもしろいぞ。」みたいな新庄流のやり方、それを教えるスーパーバイザーなどが居ればおもしろいのかなという気がします。最後に萩野学園についてですが、低学年の子どもたち、特に1・2・3年生が入学式や卒業式などで大きな声で校歌を歌う姿は学校の元気となり、一体型の義務教育学校に大きな力を与えていると非常に感じていて、それが高学年の頑張りにもつながっているのではと思っています。7・8・9年生から見れば1・2・3年生はかわいい後輩であり、逆に1・2・3年生から見た7・8・9年生はあこがれの先輩となっていて、そのことが相乗効果を生み、義務教育学校の成果として表れているのではと、皆さんからの義務教育学校に対するお話を聞きながら感じていました。これらが施設一体型の義務教育学校の特徴かなとも思います。

その他、何かございませんか。

(山村委員) 社会教育課関連で、夏休みの時に市内各施設による学習会や相談会の開催を取りまとめたチラシをいただきました。それが先程のアイデアにつながるのではと感じたところです。各学習会等に関わっていただいた方々の連携や情報交換の場を設けて、お互いの特徴を把握し合うなど、新庄独特の勉強方法を指導できる場が設定できるのではとも感じました。そのような事を感じながらも、やはり一番気になるのは「英語」です。先程の学校教育課長からの説明においても、小さな頃からコミュニケーション能力を育てていく必要があるというお話でしたが、小学校低学年からALTとの関わりを持つことによって、英語への興味が高まるのではと考えます。できれば中学校区毎にALTを配置するなどして、何とか小学校の低学年から英語と触れ合う場を増やして、コミュニケーション能力を養う機会を作っていただけたらと思います。

(市長) ありがとうございました。その他、何かございませんか。

(阿部仁美委員) 先程、市長、山村委員もおっしゃられていましたが、「勉強の方法や仕方を教える」というのは、「勉強の楽しさを教える」、つまりは「分かる楽しさを教える」ということだと思いません。ある学習塾ではプリント問題を中心とした学習方法となっており、探究型学習とは正反対だとは思いますが、その問題を「解く」ということが楽しいのだと思うんですね。やはり「分かる楽しさを教える」というのが一番基本となると感じています。

(市長) ありがとうございました。その他、何かございませんか。

(阿部浩悦委員) 私は小学校4年生から学習塾に通っておりましたが、中学校3年生の時に生徒会活動や部活動が忙しくなって止めてしまいました。ですが、勉強の仕方を学んだというのは、その学習塾の時だと感じています。その学習塾では、授業の予習と復習だけだったんですけども、予習をして授業を受けると内容が分かるんですよ。そして復習をすると。なので、予習と授業と復習しかしてないんですけども、学ぶ楽しさのヒントを与えていただいたので、私としてはありがたかったと思っています。加えて、学習塾など人の助けを借りて学び方を教わるということは悪い事ではないと思います。例えば、退職なさった先生方やボランティアの方々から学び方のヒントをいただくと。その機会に子どもたちや保護者を向かわせることのできるきっかけづくりが、私たち大人の役目なのではと考えます。また、学校の授業に集中できる子を育てるというのは、やはり家庭環境や保護者の責務が大きいのではと思います。

(市長) ありがとうございました。委員の皆さんからいろいろとご意見をいただきましたが、事務局としてはどうですか。

(学校教育課長) 探究型学習については、一体感を持って取り組んでいる学校は結果を出していると感じます。同じ授業スタイル、同じ考えのもと、具体的な授業改善に取り組むことでの効果が大きいものがあります。また、今年度は「学習意欲」に重点を置いて指導主事も指導しています。先生の指示を待って、それにすぐ反応する子どもが探究なのではなくて、自分で実際にやろうと意欲がないとなかなか伸びていかないという実感があります。家庭学習も全く同じで、同じことを継続することで習慣は身に付きますが、本当の学びとなっているのかという課題が多いと思います。

その部分を見極めていく必要があると考えているところです。

(市長) ありがとうございます。それでは教育長からまとめとしての意見をいただきたいと思います。

(教育長) 教員の指導力とよく言われますが、意欲や力量というものの重要性を改めて感じたところです。教育委員会として、その指導力向上をどのように図っていくかということを考えていかなければならないと思っています。それが、子どもたちの好き嫌いにもつながっていくことだと思いますし、加えて、子どもたちの意欲や興味関心、楽しいと思える部分を大事にしていかなければと思います。また、先程、学校教育課長の話にあった探究型学習についても、与えられた課題について探究させているという感じのところが多く、やらされ感のある課題を追及している面が強いのでは考えた時に、年に数回でもいいので、自分たちが実際に関わって勉強してみたいという課題をとことん追求してみる必要性を考えていくことで、学びのおもしろさ、楽しさに気付くのではないかと思います。併せて、今、学んでいることが現在の生活にどう関係しているのか、つまりは、子どもたちの生活と結びついた課題や問題を出していくことも必要なのではないかと。例えば、お得な買い物の仕方、宅配便の出し方などは、算数・数学の考え方の中で解決できる要素をたくさん含んでいるので、それらの学びが自分の生活の中で役に立っているということが実感できれば、子どもたち自身で新たな課題・問題を見つけ出し、またそれを解決していくと。そういったことの繰り返しによって確立されていくのが探究型学習であり、それが本来の姿だと思います。そういった授業を行っていくことが大事だと思います。次に家庭学習について、小学校では学年×10分+10分という形になっていて6年生でも70分程度となっていますが、教科の本質に触れている家庭学習であれば時間の長短は関係ないと思います。ただ、今の家庭学習はノートを埋めることだけが目的となっているような気がします。そのため、家庭で子どもが机に向かっていると、それだけで保護者も何となく安心してしまふ。ある新聞には「現在の家庭学習は、できることを優先にした家庭学習の与え方をしているが、解決しなければならない課題を与えた家庭学習の在り方に変えていかなければならない。」という提言がなされていました。家庭学習の在り方を量から質へと変えていくことが重要であると考えており、校長会にもそのようなお話したところです。また、自学ノートへのコメントの記入は相当な労力が必要で、先生方はかなり難儀しています。子ども、保護者、学校の3者で家庭学習について、改めて考えていく必要があると考えています。最後に英語については、県平均も全国平均より低くなっており、その中で、本市はその県平均よりも下回っていると。そのため、各中学校では危機意識を持ちながら、いろいろな対応、提案をいただいているところであり、評価問題を自ら作成するなどの動きも出てきています。子どもたちに英語を慣れ親しんでもらえるような手立てを考えている学校もありますので、教育委員会としてももっと仕組んでいきたいと考えています。すべての単語が分からなくても分かる部分を結び付けて、全体を理解していく。そのような英語学習の在り方を考えていく必要があると。市の教育研究所でも今後の方策に向けての研究を行っているところであり、学校から話が出ているボランティアの講師なども含め、制度設計とその手立てについて検討していきたいと思っています。

(市長) 皆さんからいろいろなご意見をいただきながら、本市の総合教育ということで、これからどう底上げしていくかということになりますが、先程の英語について、個人的には「単語力」ではと思います。私の父親は、小学校の時に毎日漢字の書き取り問題を先生から出され、徹底して取り組ん

だそうです。その甲斐があつてか、すごく難しい漢字も読み書きできるようになり、漢字に強くなったと聞いていました。これは英語にも言えることで、やはり「単語」の力が重要と考えます。複数形や形容詞への変形などの単語の仕組みは後でいいので、まずは数多くの「単語」を覚えることが先決ではと考えます。文章は単語の集合体なので、散らばっている英単語が数多くあれば、それをつなぎ合わせることによって、その文章のニュアンスも理解できるようになると。習慣付けというか、繰り返しの単語学習が必要と考えます。基礎である単語が分からない状態で授業が進んでしまうため、子どもたちが「ついていけない」ということになるのでは。基礎となる中学校1・2年生での学習が一定程度身に付いていれば、それなりの点数は取れるのではないか。それ以上を目指していく場合に、さらにハイレベルな教え方が必要となってくるのでは。受験対策のためだけではありませんが、中学校1・2年生の英単語学習を徹底して繰り返すというのも1つの手法ではと考えます。最後に本日の協議の中で1つはっきりしたことは「おもしろく」ということがキーワードだと思います。今までのお話の中で感じたことは、学校での成績を上げることへの先生方の焦りがあるのではということ、逆に、学習塾の先生方は工夫しておもしろい授業を行っているのではということです。学習塾に通うのは子どもの意欲向上のためや保護者の勧めもあつてのことだと思うので、各家庭での判断になると思いますが、私は自分の子どもたちには「まずは授業で先生の話を中心して聞いてこい。」といつも言っていました。現在の教育現場の中では、先生方もいろいろと苦労していることが多く大変だとは思いますが、「学校の先生に勝る講師はいない」と思っています。本日はお話の中で、義務教育学校に対する期待感やその課題、スーパーバイザーの活用も含めた授業の工夫などたくさんの貴重なご意見をいただき、大変有意義な総合会議だったと思います。誠にありがとうございました。

(市長) それでは、他になければこれで協議を閉じさせていただきたいと思います。

#### 4. その他

特になし

#### 5. 閉会

午後5時01分閉会する。